

2004年（平成16年）阿嘉島臨海研究所の1年間の動き  
List of research activities at AMSL by visitors and staff members in 2004

●主な利用者と研究課題など（敬称略）

- 1月 「有性生殖を利用した造礁サンゴ群集の大規模修復・造成技術の開発」 林原 毅（西海区水産研究所石垣支所）ほか：3月、6月、9月、12月にも実施  
「サンゴ断片の卵母細胞吸収について」 大久保奈弥（東京工業大学生命理工学研究科）
- 2月 「同位体を利用したサンゴ礁のCO<sub>2</sub>吸収効果の研究」 立田 穰（財）電力中央研究所）ほか：7月にも実施
- 3月 「サンゴのミトコンドリアDNA配列多型に関する研究」 渡邊俊樹（東京大学海洋研究所）  
「サンゴの菌相解析および有用物質の探索」 廣瀬美奈（海洋バイオテクノロジー研究所）ほか
- 4月 「慶良間列島のイシサンゴの分布調査」 伊藤勝敏（日本写真家協会）ほか：10月にも実施
- 5月 「サンゴ種苗生産の研究」 服田昌之ほか（お茶の水女子大学理学部）  
「サンゴ増殖技術の開発」 青田 徹ほか（株）テトラ）：6月、7月、8月、9月、12月にも実施
- 6月 「ウスエダミドリイシ幼生への褐虫藻の感染」 渡邊俊樹（東京大学海洋研究所）  
「Evolution of the scleractinian coral」 Nancy Knowlton（カリフォルニア大学サンディエゴ校スクリップス海洋研究所）ほか  
第10回国際サンゴ礁シンポジウム（沖縄）において、大森 信所長が国際および国内組織委員となり、また “Coral Reef Restoration and Remediation” セッションのコンビナーと司会者の一人を務めた。さらに、公開シンポジウムでは、“第2部 慶良間列島－沖縄のサンゴ礁保全に向けて”の司会者を務めた。谷口洋基研究員は、「The coral reef management in Zamami Village, Okinawaを口頭発表、 「The Nursery production of reef building coral」をポスター発表した。岩尾研二研究員は、「Enhancement of production of coral larvae under suitable conditions of temperature and salinity, and technique for their transplantation」をポスター発表し、公開シンポジウムにおいて「残されたサンゴ礁－慶良間列島、その美しさ」を報告した。  
第10回国際サンゴ礁シンポジウム科学巡検 “阿嘉島の自然”には、世界中から集まった28名のサンゴ研究者などが参加し、阿嘉島を訪れた。阿嘉島臨海研究所が担当機関となり、村役場、あか・げるまダイビング協会、（株）21ざまみ、阿嘉小中学校や島民の方々の協力のもと、参加者は3泊4日の阿嘉島巡検を楽しんだ。
- 7月 「水族館におけるサンゴ増殖の研究」 Helmut Schumacher（デュースブルク・エッセン大学生態学研究所）ほか  
「琉球列島のソフトコーラル」 Yehuda Benayahu（テルアビブ大学動物学科）ほか  
「沖縄産ヒトデの新規サポニン成分の神経突起誘導作用」 小鹿 一ほか（名古屋大学院生命農学研究科）  
「Bioeroding sponges」 Christine Schoenberg（クィーンズランド大学）  
「有性生殖を利用したサンゴ礁再生技術の開発」 鈴木 豪（京都大学大学院農学研究科）
- 8月 「海産刺胞動物の毒素に関する研究」 永井宏史ほか（東京海洋大学海洋環境学科）
- 10月 「Taxonomy of benthic dinoflagellates」 Shauna Murray（東京大学アジア生物資源環境研究センター）ほか  
「Ecology of reef fishes and sea anemones」 Michael Arvedlund（琉球大学熱帯生物圏研究センター）：12月にも実施
- 11月 「平成16年度赤土等汚染海域定点観測」 上原睦男ほか（株）沖縄環境保全研究所）  
日本サンゴ礁学会第7回大会（東京・国士館大学）において、谷口洋基研究員が「阿嘉島周辺のサンゴ被度の変化と地元住民による保全活動」を口頭発表、岩尾研二研究員が「海草上に生息するホソガヤ科の一種（ヒドロ虫綱の生態）」をポスター発表した。

---

●その他の主な来所者（来所日順）

菅 浩伸（岡山大学）、遠藤摩樹（横浜市立金沢高校）、曾野綾子ほか（日本財団）、渡嘉敷小学校児童、小林潤一郎ほか（(株)芙蓉海洋開発）、入川暁之（(株)イーエーシー）、庄司武志（(株)テトラ）、阿嘉小中学校児童生徒、海野義明（オーシャンファミリー海洋自然体験センター）ほか、10th ICRSエクスカッション参加者、川上泰司（国土交通省）ほか、山城 聡（沖縄県公園・スポーツ振興協会）ほか、内野加奈子（ハワイ大学）、東京都立城東高校PTA、JICA研修生、近畿大学水産学部生、河野 孝ほか、木村 匡（自然環境研究センター）、Henrik Glenner（コペンハーゲン大学）、古川秀雄（日本財団）、中村 正ほか（東京都立小金井工業高校）、小島理明（横浜市立鶴見工業高校）、新井章吾（(株)海中景観研究所）ほか、貫井真史ほか（NHK）

●AMSL刊行物

「みどりいし」 No. 15、「アムスルだより」 Nos. 65-70.

●発表論文等

- 青田 徹・綿貫 啓・柴田早苗・熊谷 航・灘岡和夫・三井 順・岩尾研二・谷口洋基・大森 信 2004. サンゴ礁形成要因としてのサンゴの成長量に与える物理環境の影響. 海岸工学論文集, 51: 1071-1075.
- Fukami, H., A. F. Budd, G. Paulay, A. Solé-Cava, C. A. Chen, K. Iwao and N. Knowlton 2004. Conventional taxonomy obscures deep divergence between Pacific and Atlantic corals. *Nature*, 427: 832-835.
- Fujiwara, S. and M. Omori 2004. Transplantation of whole coral colonies and coral reefs. In: Omori, M. and S. Fujiwara (eds) *Manual for restoration and remediation of coral reefs*. Nature Conservation Bureau, Ministry of the Environment, Japan, Tokyo, Japan, pp.44-49.
- Fujiwara, S. and M. Omori 2004. Concluding observations. In: *Ibid.*, pp.79-83.
- Hatta, M., K. Iwao, H. Taniguchi and M. Omori 2004. Restoration technology using sexual reproduction. In: *Ibid.*, pp.14-28.
- Omori, M. 2004. Conservation, restoration and remediation of coral reefs: Background and significance. In: *Ibid.*, pp.1-2.
- Omori, M. and S. Fujiwara (eds) 2004. *Manual for restoration and remediation of coral reefs*. Nature Conservation Bureau, Ministry of the Environment, Japan, Tokyo, Japan, 84pp.
- Omori, M. and M. Kitamura 2004. Taxonomic review of three Japanese species of edible jellyfish (Scyphozoa: Rhizostomeae). *Plankton Biol. Ecol.*, 51(1): 36-51.
- Omori, M. and N. Okubo 2004. Previous research and undertaking of coral reefs restoration. In: Omori, M. and S. Fujiwara (eds) *Manual for restoration and remediation of coral reefs*. Nature Conservation Bureau, Ministry of the Environment, Japan, Tokyo, Japan, pp.3-13.
- 綿貫 啓・青田 徹・柴田早苗・口ノ町誠・谷口洋基・大森 信 2004. 有性生殖によるサンゴ増殖技術の開発ー幼生の運搬・放流によるサンゴの増殖ー. 第3回海環境と生物および沿岸環境修復技術に関するシンポジウム発表論文集, pp.41-46.
- 綿貫 啓・青田 徹・柴田早苗・谷口洋基・大森 信 2004. 幼生の大量運搬によるサンゴ礁開発技術の開発(その2). *海洋開発論文集*, 20: 389-394.

訃報---

2004年12月10日、酒井忠二三氏がお亡くなりになりました。享年87歳でした。酒井氏は1988年10月から当財団の理事を務められ、活動運営にご尽力頂きました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。